

# 第18回Wリーグ

## プレーオフ・ファイナル 第2戦

### 会見要旨



#### JX-ENEOSサンフラワーズ(2勝0敗)

##### ■トム・ホーバス ヘッドコーチ

今日の試合について、試合の出だしはトヨタ自動車にエネルギーがあったと思う。

JX-ENEOS のスイッチングディフェンスにトヨタはアジャストしていた。1Q途中からゾーンディフェンスでJXも良くなったと思う。渡嘉敷は調子が良くなかったがとても頑張っていた。

今日はチーム全員で勝ち取った試合だと思う。今日のような試合は今シーズンはあまりなかったが、経験あるメンバーが大事なところでJXらしい良いバスケットをやったと思う。

##### ■#0 吉田 亜沙美 選手

試合の出だしが良くなかった。トヨタ自動車はとても良いリズムでバスケットをしていた。自分たちのバスケットが出来ずに苦しんでいた中、宮崎が流れを変えてくれて前半を逆転して折り返すことができた。あれがなかったら勝てていなかったと思う。

今日の試合は全員で勝ち取った大きな1勝だった。

##### ■#32 宮崎 早織 選手

すごく緊張した試合だった。チームの雰囲気が悪くなかったので自分は頑張って走ろうという気持ちで臨んだ。ナイスパスが来て、いいシュートが打てた。

1Qのブザービーターは、時間がないと思い、ドリブルで運んで行って打った。自分でも入った思い、びっくりしたのと同時にすごく嬉しかった。

あのようなブザービーターはバスケット人生で初めてだと思う。

# 第18回Wリーグ

## プレーオフ・ファイナル 第2戦

### 会見要旨



#### トヨタ自動車アンテロース(0勝2敗)

##### ■ドナルド・ベック ヘッドコーチ

JX-ENEOS のチームのことはとても尊敬しており、どれだけ強いチームかもわかっている。もちろん、同様にトヨタ自動車のチームに対してもリスペクトを持っている。どれだけ選手たちが一生懸命やっているかというところは本当にリスペクトしたい。得点を見てもわかるように、どんどんと「勝つ」「破る」に近づいてきている。試合の序盤にターンオーバーから少し私たちのバスケットが崩れてしまったのはあるが、JXのようなチームには、このようなターンオーバーは沢山やってはいけない。しかしながら、今日の試合のチームの頑張りにはとても満足している。

##### ■#1 大神 雄子 選手

ヘッドコーチが振り返った通りだと思う。チャンスというのは、初戦も含め自分たちにも必ずあり、今日の試合も前半はリードして終われたと思うし、「もう一つ」というところでそれぞれが足りなかった。今はただ悔しい。今日の試合は、すごく悪かったわけではないし、本当に良いスタートが切れていた。ただ、それを40分間やってこそそのバスケットなので、最後まで遂行できなかったことが、今日の結果に繋がった。「ここで一本欲しい」という時に、JX-ENEOSの宮崎選手や吉田選手が決めたところの差が最後に少し出ただけということである。コーチの言った「もう少しの部分まで来ている」ということを自分たちで証明しなければならない。もう後がないので第3戦は、その本当に少しの部分、自分たちがやらないと無敗のJX-ENEOSには勝てない。もう一回、明日しっかりアジャストも含めて準備をして、コンディションを整えて、第3戦はバスケットの聖地代々木でプレーできるので思い切って表現したい。